

I-PEX (コード 6640)

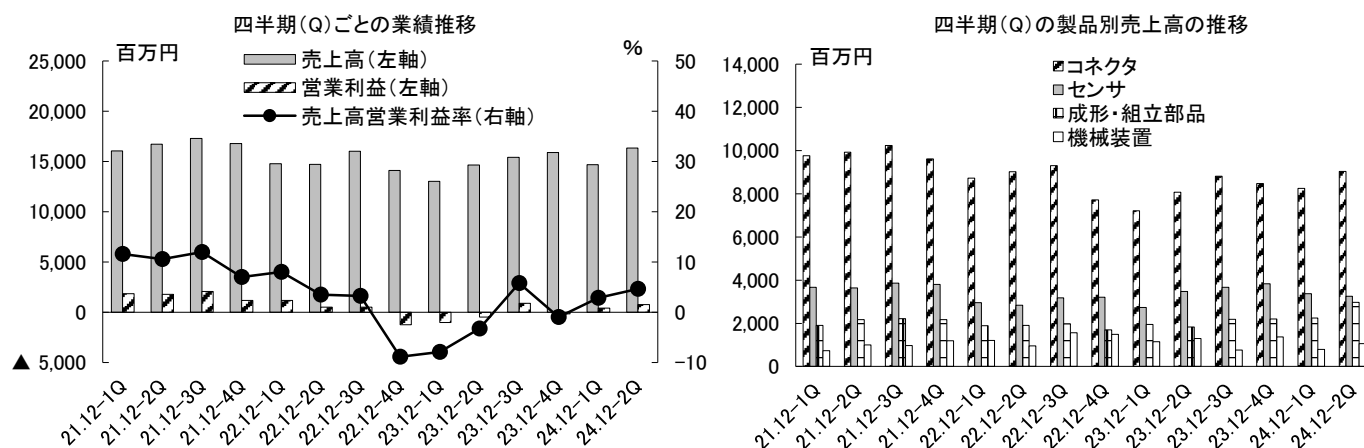
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	32,799	3,631	157.8	15.0	7,035	▲3,953	▲1,444	13,588
22.12	29,505	1,710	63.8	20.0	5,418	▲3,057	▲2,082	15,111
23.12	27,702	▲1,506	▲69.9	20.0	2,561	▲1,596	▲1,598	14,152
24.12	31,001	1,181	55.0	20.0	4,281	▲2,030	▲1,893	16,677

◆通期業績推移(連結) (24.12 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
21.12	66,871	6,877	316.8	50.0	12,809	▲7,946	▲3,236	13,797
22.12	59,643	978	9.1	40.0	9,669	▲6,165	▲3,690	14,269
23.12	59,014	▲759	▲68.4	40.0	6,868	▲2,781	▲3,066	15,582
24.12予	64,000	3,800	161.7	40.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



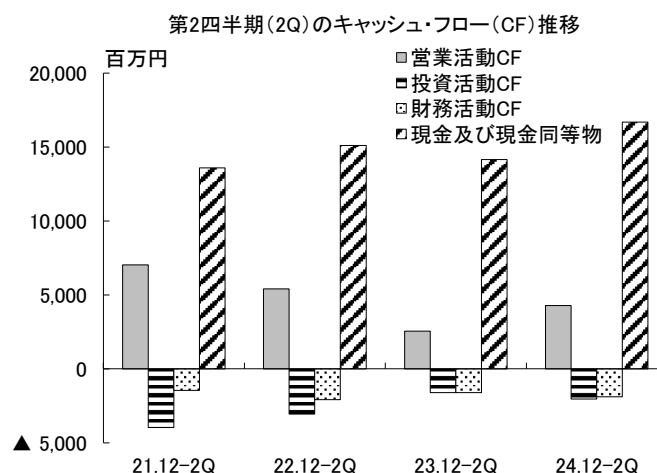
24年12月期の中間期業績概況…24年12月期の中間期(24年1~6月)の業績は、ノートパソコン市場の復調に伴ってコネクタ需要が好調に推移したほか、データセンター向けの大容量HDD関連部品の需要が増加。売上高は前年同期に比べ約12%増、営業損益は黒字回復となり、期初見通し(売上高290億円、営業利益3億1,000万円)を大きく上回った。

当期の売上高は310億100万円(前年同期比11.9%増)、営業利益は11億8,100万円(前年同期は15億600万円の損失)、経常利益は20億8,600万円(同10億1,700万円の損失)、親会社株主に帰属する中間純利益は10億2,000万円(同12億9,700万円の損失)となった。営業外収益では為替差益8億4,200万円(前年同期比91.4%増)、特別損失では投資有価証券評価損4億6,900万円(前年同期は2,900万円)を計上している。

セグメント別売上高は、コネクタ172億8,500万円(前年同期比13.1%増。期初予想155億5,000万円)、センサ66億3,200万円(同6.9%増。期初予想70億円)、成形・組立部品52億2,100万円(同38.5%増。期初予想44億5,000万円)、機械装置18億6,100万円(同24.0%減。期初予想20億円)となった。コネクタにおいては、モビリティ向けが前年同期比9.4%減となったものの、パソコンなどのライフ向けが同24.8%増、データセンターなどのデジタルインフラ向けが同25.6%増と好調に推移。四半期(3カ月)ベースで第2四半期(同年4~6月)は、第1四半期(同年1~3月)と比べてライフが同14.8%増、モビリティが同7.9%減、デジ

タルインフラが同 18.5%増となった。センサにおいては、同セグメント全体の 97%を占めるモビリティ向けが前年同期比 7.9%増と伸長。ただ、国内自動車メーカーの不正問題に伴う生産停止の影響でエンジン向け圧力センサなど自動車関連部品の需要が低下し、第 2 四半期は第 1 四半期と比べて 3.2%減となった。成形・組立部品では、モビリティ向けが前年同期比 14.6%増と好調に推移。デジタルインフラ向けについても同 54.0%増と急拡大しており、データセンター市場の回復に伴い前期第 2 四半期（23 年 4～6 月）を底に高水準で推移。第 2 四半期の第 1 四半期比でもモビリティ向けが 16.2%増、デジタルインフラ向けも 21.0%増と好調を続けている。機械装置については、車載用やパワー半導体用の設備投資が軟調に推移したことを背景に前年同期比で 24.0%減となったが、第 2 四半期の第 1 四半期比では 33.2%増と回復している。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末の現金及び現金同等物残高は 166 億 7,700 万円（前年同期末比 17.8%増）となった。営業活動 CF は、税金等調整前中間純利益 16 億 6,800 万円（前年同期は税金等調整前中間純損失 10 億 1,400 万円）、減価償却費 30 億 3,100 万円（前年同期比 5.6%減）、賞与引当金の増加額 16 億 3,100 万円（同 48.4%増）、売上債権の増加額 4 億 5,400 万円（同 65.2%減）、たな卸資産の増加額 20 億 7,900 万円（前年同期は減少額 7 億 3,700 万円）、仕入債務の増加額 5 億 8,200 万円（前年同期比 46.6%増）などにより、42 億 8,100 万円の収入（同 67.2%増）となった。投資活動 CF は、有形固定資産の取得による支出 20 億 5,500 万円（同 28.6%増）などにより、20 億 3,000 万円の支出（同 27.2%増）になった。財務活動 CF は、長短借入金の借入れ及び返済による差引支出額 6 億 4,100 万円（同 188.7%増）、長期未払金の返済による支出 5 億 9,600 万円（同 13.9%減）、配当金の支払額 3 億 7,100 万円（同横ばい）などにより、18 億 9,300 万円の支出（同 18.5%増）となった。



24 年 12 月期の通期業績見通し…今期（24 年 12 月期）の中間期の好調を受け、会社側では今期の通期業績見通しについて、24 年 8 月 8 日付けで期初から通算 2 回目の増額修正（1 回目は 24 年 5 月 10 日付け）を行っている。

通期の業績見通しは、売上高 640 億円（前期比 8.4%増。修正前 630 億円）、営業利益 38 億円（前期は 7 億 5,900 万円の損失。修正前 34 億 9,000 万円）、経常利益 47 億円（同 5 億 5,500 万円の損失。修正前 38 億 3,000 万円）、親会社に帰属する当期純利益 30 億円（同 12 億 6,900 万円の損失。修正前 25 億 6,000 万円）。

セグメント別売上高予想については、コネクタが 352 億円（同 8.1%増。修正前 345 億円）、センサが 135 億円（同 1.5%減。修正前 137 億円）、成形・組立部品が 111 億円（同 35.9%増。修正前 104 億円）、機械装置が 42 億円（同 8.4%減。修正前 44 億円）となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。